

二三の THUNBERG 植物に就て

田中, 長三郎
九州帝國大學農學部園藝學教室

<https://doi.org/10.15017/20725>

出版情報 : 九州帝國大學農學部學藝雜誌. 1 (4), pp.191-209, 1925-09. 九州帝國大學農學部
バージョン :
権利関係 :

二三の THUNBERG 植物に就て¹⁾

田中長三郎

(大正十四年八月十二日受領)

C. P. THUNBERG が *Flora Japonica* (9) を著せるは 1784 にして其出版年次に於ては P. OSBECK の *Dagbok* [1757], N. L. BURMANN の *Elora Indica* [1768] に遅るゝも其重要の度に於ては Joh. de LOUREIRO の *Flora Cochinchinensis* [1790], W. ROXBURGH の *Flora Indica* [1820—24] に劣らず、東亞植物命名學の出發點に是を擬するは寔に理あるなり。其の擧ぐる所 812 種、其の種名は LINNAEUS の既存種を除けば悉く THUNBERG の命ずる所にて、後 *Transactions of the Linnæan Society* 誌 (10) に於て改名せるものを加算し、門弟 Wallström (11) の計算に従へば新屬 26、新種 390 の多數を記説せるものなり。其後 LINNAEUS 植物と鑒定せられたるものにも後研者に依り日本品の異なる事考査せられ之を更に新種に數へられたるもの多數あり、是等を通算する時は THUNBERG 植物の過半は新種なるを知る。故に周く東亞に分布する夫等植物の大部分は日本に於て命名されたるに等しく、従て東亞植物を研究するものに先づ日本植物を知悉するの要を與へ、日本植物をして學術上最も重要なるものたらしめしなり、其功實に THUNBERG の初研に在るは論を俟たざるなり。

然るに THUNBERG 新名を精細に觀察するに、其の或物は現在に於て如何なる Combination の下に於ても存在せざるものあり、是不當なる後名によりて置替られたるものにして、命名規約上其の復活は至然且必要たるなり。又夫等の中には西書には存在を認められ居るも我國に於て之に應ずべき實物の何たるかを知らず、自然不問のまゝ現在に及べるものあり、而して其果して何物なるかを知るは本邦植物命名上甚だ重要な事柄なり、而して右の如き不合理を數ふる時は我が植物志の根底に於て多くの不備を發見すべく、是等の整理は本邦植物志の齊備に資するものにして恰も TORREY, GRAY の學界に與へたる功績に類似するものあるなり、何となれば此種事業は THUNBERG の type specimens と日本植物腊葉との比較を以て初めて成立すべく、恰も上記先哲が PURSH, NUTTAL, MICHAUX 等の植物に對して行ひたる事業に匹敵

1) 聯合寄與(九州帝國大學農學部園藝學教室・第七。宮崎高等農林學校實業植物學教室・第一)。

するあればなり。

凡そ THUNBERG 時代の植物記文は LINNAEUS に比して甚しく増大したりとは云へ猶甚だ簡素たるを免れざるものあり、又 THUNBERG の日本植物を採集したる時たるや鎖國時代の嚴重なる監視の下に行はれたるが故標品の不完全なる多きは止むを得ず、又 THUNBERG 腊葉は僻遠の地に保存され容易に看査すべからざるものあり、是等の理由は右の如き不明品を今日まで残存せしめし主たる理由にして、彼の MAXIMOWICZ 如き優秀なる日本植物研究者の Sweden 訪問を以ても猶不解決の問題を多く残せる所以なり。茲に於て著者は大正十一年九月多數の日本植物標品を携へて Upsala 大學を訪問し、多年願望せる THUNBERG 植物腊葉を實査し、具に名實を對審査定する事を得たり。今茲に掲ぐる所は即當時の研究に基けるものなり。

爾來 THUNBERG 植物を研究せるもの少からず、就中伊藤圭介編泰西本草名疏 (3) は最も重要な文献にして、THUNBERG 名稱の校訂は全然其師 SIEBOLD の説に従へるが故に、其の Synopsis plantarum oeconomicarum に漏れたるものは本書の名稱に valid のものあり、恐らく日本文献中 Vienna code に従ふべき有效學名を具ふる最初の文献たりと稱し得べし。次で飯沼愨齋著草木圖說草部 (2) は LINNAEUS, THUNBERG を引據命名せるもの多く中には頗る妥當にして用可きものあり。而して松村任三帝國植物名鑑 (5) に至りては現用名稱に THUNBERG 原名を引用對照する事大に相努め頗る參考に資すべく、改訂植物名彙後編 (6) に及び多少の改竄を免れざりしが猶不朽の價值あり、JUEL (4) に至りては更に最も重大なる貢獻を齎したるものにして、其の名稱の改訂は多くは Index Kewensis (1) に據りたりとは云へ THUNBERG 植物研究の指針たる價值は充分たるなり。

猶 THUNBERG 植物の研究に當りては、其の type localities に於て同一植物を再採集し、具に type の再現を企つる事、type conception を遵奉する吾人の當然行はざる可からざる所にして、斯の如き聚集は此種の研究に裨益する所頗る大なるあるなり。著者は茲に主として其任に當りたる市川壽君に謝意を表す。

以下 Flora Japonica 舉用の順位に従ひて THUNBERG 植物の考察を録す。肉太文字にて示せる名稱は THUNBERG 名稱の復活せるもの、又は本論文に於て提稱せる有效名稱或は新名なり。猶本文 THUNBERG 著書名中 Gen. とあるは Nova genera plantarum (7), Mus. Ups. とあるは Museum naturalium Academiae Upsaliensis (8), Tr. Linn. S. c. とあるは Transactions of the Linnean Society, London (10) なり。其他他家の引據書名解説は一々贅せず、之分類家の知悉する所なればなり。猶個々の新屬解説、大屬の monograph 等所謂 “THUNBERG dissertations” に

現はれたるものは引據の違なかりしものあり、夫等に對する著者の資料は別に開陳するの機會あるべし。

Salix integra THUNB. 24.

本種は名鑑之をコリヤナギの異名となし、Index Kewensis は *Salix repens* LINN. に合するも共に非にして標本はイヌコリヤナギなり。即改訂名彙に載する *Salix purpurea* LINN. subsp. *amplexicaulis* BOISS. 又 JUEL の引用する ANDERSSON, in Mein. Amer. Acad. (1858): 451 の *S purpurea* LINN. sec. AND. は之を廢し獨立種として此名を保存するに如かざるなり。

Commelina communis LINN. ex THUNB. 35.

本名は後 *Commelina japonica* THUNB. in Tr. Linn. Soc. II. (1794): 332 と改稱されたるも獨立種に非ずしてヤブメウガの花なり、ツルクサの類に非ざるなり。ヤブメウガの標本は別に *Pollia japonica* THUNB. Gen. 1 (1781): 11 として存す。

Kyllinga triceps LINN f. ex THUNB. 35.

本種は名鑑ヒメクマの異名となすも標本はヒンジガヤツリなり。Fl. Jap. は明に “*K. capitata aggregatis triphyllis*” とあり、即本種は *Lipocarpa microcephala* KUNTH. Enum. II. (1837): 268 の異名に配すべきなり。

Carex vulpina LINN. ex THUNB. 37.

本種は後 *Carex cephalotes* THUNB. Mus. Ups. 10 (1791): 145 と改稱せられたるも其の標本鑑定不能の爲め此名は死滅し、別に *Carex cephalotes* F. MUELL. in Trans. Phil. Soc. Vict. 1 (1855): 110 の設定を見るに至れり。然るに THUNBERG 標本は不完全ながらミノボロスゲなるを知る、故にミノボロスゲの現用學名 *Carex nubijena* DON var. *planiuscula* KUECK. を廢して本名を用う可し、MÜLLER の *cephalotes* は Müller 自身 Fragmenta Phytographiae LXX (1874): 251 に於て *Carex capitata* LINN. に合せり。

Carex remota LINN. ex THUNB. 37.

本學名を名鑑 (p. 131) ヤブスゲに充つるは正し、何となれば瑞典産 *remota* の標本を見るにヤブスゲに等しければなり。後 WAHLENBERG は THUNBERG 種を *Carex gibba* WAHL. in Act. Holm. (1803): 148 と改名し THUNBERG も亦 Plant Jap. Spec. Novae に於て之を採用せるも原鑑定正しきを以て此の改名に及ばず。而して名鑑別に *C. gibba* をマスクサに充つれども素より *gibba* と THUNBERG の *remota* とは同一品を指せるもの故別種たるの理なし。即マスクサは全

然本種と無關係なり。

Carex caespitosa LINN. ex THUNB. 39.

本種はアゼスゲなり、名鑑鑑定の如し。然れども其正名とせる *C. Gaukhauiana* KUNTH は今 *C. vulgaris* FR. の異名にしてアゼスゲは宜しく *Carex Thunbergii* STEUD. in Flora 29 (1846) : 23, Synopsis, II (1855) : 221 たらざる可からざるなり。

Andropogon c. initus THUNB. 40. tab. 7.

本種はイタチガヤなり。今名鑑 Index Kewensis に従ひて *Pogonatherum saccharoideum* BEAUV. Agrost. (1812) : 176 t. 11. f. 7. を用うるも須く *Pogonatherum crinitum* (THUNB.) KUNTH Enum. I (1833) : 478 を用う可し。KUNTH は此の combination を TRINIUS に歸するも、其引據せる TRINIUS の Fundamenta (1820) : 166 は *Homoplitis crinita* (THUNB.) TRIN. と記し *Pogonatherum* BEAUV. は異名として置けるに過ぎず、即ち此 combination の authority は KUNTH 自身たるなり。

Andropogon ciliatum THUNB. 40.

本種はメガルカヤなれども既に RETZIUS の *A dropogon ciliatum* RETZ. なる別種あるを以て後 *Anthistria setosa* THUNB. Pl. Jap. Nov. Spec. (1824) : 5 と改稱せり。此の名 nomen nudum にて何を指せるや著述上には不明なれど標本は確に *Andropogon ciliatum* に此名を附しあれば疑ふ可くもあらず。然れども是より先既に WILLDENOW は *Anthistria japonica* WILLD. Sp. Pl. IV (1805) : 901 を作り本種を配し居るを以て此改稱は無効に屬し、従てメガルカヤの學名は *Themeda japonica* (WILLD.) n. comb. たる可し。因に云ふ *Anthistria* LINN. f. (1779) を取りて *Themeda* FORSKAL (1775) を排する Index Kewensis の方針は Vienna code 附録に於て認むる所とならず、宜しく O. Kuntze の Rev. Gen. II. (1891) : 794 の示す如く後者を採用すべきなり。

Phalaris hispida THUNB. 44.

本種は名鑑に載せず、然れども標本はコブナグサなり。今 *Arthraxon ciliaris* (RETZ.) BEAUV. Agrost. (1812) : 111, t. 11, f. 6. を取用うるは更に以前の *Ischaemum ciliare* RETZ. Ob3 6. (1791) : 36 を combine せりとするも猶 THUNBERG の方 antedate なり、故にコブナグサの學名は *Arthraxon*

hispidus (THUNB.) n. comb. たる事を提稱す。

Phalaris erucaeformis LINN.

本種は Fl. Jap. に載せず、即ち登載漏なり、其標本は正しくミノゴメなり。今ミノゴメの學名として *Beckmannia erucaeformis* (Linn.) Host. を用ふるは正し。猶名鑑は Index Kewensis に従ひて *Phalaris orizoides* THUNB. 44. をミノゴメの異名に宛つ、之 *Leersia orizoides* (LINN.) SW. Nov. Gen. Sp. Pl. (1783) : 21 ; Fl. Ind. Occ. 1. (1797) : 132 として用ゐらるゝ種なるが故にミノゴメとは別なり。THUNBERG 標本は恐らく Java 産品なるべし。

Panicum hirtellum LINN. ex THUNB. 46.

本名は名鑑に見えず、THUNBERG 標本はチバミザ、なり。即 Index Kewensis の示す如く本種は *Optismenus Burmanni* (RETZ.) BEAUV. Agros?. (1812) : 54 の異名に配して可なり。

Panicum hordeiforme (LINN.) THUNB. 46. tab. 9.

THUNBERG は *Alopecurus hordeiformis* LINN. Sp. ed. 1 (1753) : 90 を右の如く combine せるも、後更に *Cenchrus purpurascens* THUNB. in Tr. Linn. Soc II. (1794) : 329 と改稱せり。本植物は Fl. Jap. の圖の示す如くチカラシバなるが故、牧野氏之を combine して *Pennisetum purpurascens* (THUNB.) MAKINO となせり。然るに此組合せ以前に於て *Pennisetum purpurascens* H. B. K. Nov. Gen. 1 (1829) : 113 の homonym あり、之を *Pennisetum scotsum* RICH. の Syn. と見る者あれど、決して universally non-valid と認め居られず、故に本種に既に命名せられたる *Pennisetum japonicum* TRIN. in SPRENG. Neue Entd. II (1821) : 76 を廢して特に右の combination を主張する理由あるなし。名鑑即此名を採るも改訂名彙前者を採るは早計なり、HACKEL は勿論、BAILEY Cyclopaedia の如きも *P. japonicum* を採れり。

Panicum grossarium LINN. ex THUNB. 48.

本種は後 *Panicum bisulcatum* THUNB. in Nov. Act. Soc. Sci. Upsal. 7 (1815) : 141 と改稱せられ、Ind. Kew. も亦其獨立を認むると雖も日本に於ては夙に亡失せり。標本はヌカキビに等しき故、*Panicum acroanthum* STEUD. Syn. I (1855) : 87 の使用は中止して本名を復活すべきなり。

Milium globosum. THUNB. 49

本種は確にチゴザ、なり。然れども今日用うる所の *Isachne australis* R. BR. Prodr. I. (1810). 196 は “panicula lanceolata simpliciter ramis pedicellisque flexuosis, culmo erecto” と云ふを以て日本種チゴザ、と同一と考ふる事頗る困難なり。KUNTH は本種の獨立を認め *Eriochloa? globosa* KUNTH, Rcv. Gram I (1829): 30 の combination を設けると雖も、本種の籼花は二花なる故 *Isachne* なり。即 *Isachne globosa* (THUNB.) n. comb. と呼ぶ可きなり。

Agrostis ciliata THUNB. 49.

Poa hirta THUNB. 49.

共に日本にて亡失せり。前者は KUNTH *Festuca? Thunbergii* KUNTH Enum. I. (1833): 412 として載せ、Ind. Kew. 又之に従ひ、後名は又別に成立を許せり。然るに THUNBERG 標本を検するに共にトダシバなり。然るにトダシバの學名は名鑑も用うる如く *Arundinella anomala* STEUD. Syn. I (1855): 116 にして STEUDEL は其記す所に従へば Lyden の標本 *Agrostis ciliaris* (sic?) に基けりと云へば恐らく THUNBERG 標本に據れるものならん、宜しく THUNBERG 原名の孰れかにて置替ざる可からず。今按ずるに若し “la priorité de position” に従ふとせば *Arundinella ciliata* をトダシバの學名と爲さざる可からざるも、Vienna code は 1867 DE CANDOLLE 原規約の主旨に従ひ著者の撰擇 (choix de l'auteur) を許すを以て *Arundinella ciliata* NEES ex MIQ. in Verh. Nederl. Inst. III, 4 (1851): 30 なる valid homonym を避け、今 *Arundinella hirta* (THUNB.) n. comb. を以てトダシバの正名たらしめん事を提稱するものなり。

Poa trivialis LINN. ex THUNB. 50.

JUEL は THUNBERG Herbarium に本種存在すと記し本種を生存せしむるも、著者は其標本を見出さざりき。HACKEL in Bull. Herb. Bjiss. 7 no. 10 (1899): 711 は本種を日本に見ずと記す。Fl. Jap. の記文は簡に過ぎ要を得ざれども、Sweden より得たる *Poa trivialis* LINN. の標本は殆ど全然我がミゾイチゴツナギに等しく、唯籜にはカハライチゴツナギに見る如き紫色を呈するあるのみ。故に著者は HACKEL 鑑定之如くミゾイチゴツナギに對して *Poa acroleuca* STEUD. Syn. I (1855): 256 設定の必要を認めず。THUNBERG はミゾイチゴツナギを見たるものと信ず、記文又畦畔に生ずる由を述ぶる故益々其然るを知る可し。

Poa barbata THUNB. 50. tab. 10.

KUNTH 本種を生かす。又 JUEL は是を *Eragrostis barbata* (THUNB.) TRIN. と記すも TRINIUS

の原文 in Bull. Sci. Acad. Pétersb. I (1806) : 70 は Brasil 産品を擧げ決して THUNBERG の種を combine せるに非ず。今 THUNBERG 標本を検するにカゼクサの若きものに過ぎず、而して名鑑之をイトスバメガヤ *Eragrostis atrovirens* TRIN. に充つるは當らざるなり。即 THUNBERG の擧ぐる前種 *Poa ferruginea*. THUNB. 50. = *Eragrostis ferruginea* (THUNB.) BEAUV. Agrost. (1812) : 71 と同一物たるなり。

Festuca misera THUNB. 52.

名鑑之をカハライチゴツナギに當て HACKEL の極めて不穩當なる學名 *Poa palustris* LINN. var. *strictula* (STEUD.) HACK. を配するも, Ind. Kew., JUEL 等之を獨立種として生存せしむ。今標本を検するに實になりたる所のカモジグサなり。而して今カモジグサには *Triticum (Agropyrum) smicostatum* NEES ex STEUDAL Syn. I (1855) : 346 (Afghanistan 産) を充つるも頗る疑はしく、宜しく *Agropyron miserum* (THUNB.) n. comb. を設定すべし。

Viscum Opuntia THUNB. 64.

本種の標本はヒサカキに寄生せるヒノキバヤドリギなり THUNBERG は LINNAEUS の *Viscum opuntioides* LINN. Sp. ed. I (1753) : 1452 を引くも其の誤記に非ざる事は目次にも示し、且後 Tran. Linn. Soc. II (1794) : 329 に *Viscum japonicum* THUNB. と改稱せる時も “*opuntia*” と記すを以て明かなり、而も右の改稱に伴ふ本文は Fl. Jap. の原文に “*articulis trigonis*” の二語を附せるに止り何等辨疑なし故に現在 *V. japonicum* を用うると雖も此改稱は命名規則に反するものと知る可し、即ヒノキバヤドリギの學名は *Pseudixus Opuntia* (THUNB.) n. comb. たる可きなり。

Eugenia piperita LINN. ex THUNB. 64.

本種の和名は名疏サンセウ、イヌサンセウを併記し孰れなりやを決定せず、名鑑も亦不問に附せり。標本はイヌサンセウなり。故に本種は *Zanthoxylum piperitum* (LINN.) D. C. に非ずして *Zanthoxylum schinifolium* SIEB. et ZUCC. in Abh. Akad. Münch. 4 no 2 (1846) : 137 なり。

Elaeagnus crispa THUNB. 66.

MAXIMOWICZ は *Elaeagnus multiflora* THUNB. ♂. *crispa* (THUNB.) MAXIM. in Mel. Biolog. 7 (1870) : 561 即ナツグミの一變種となすも標本はアキグミの充分生長せる葉と小數の果實とを具ふる

ものなるが故本種は *Elaeagnus umbellata* THUNB. 66. の異名に配すべきなり。凡そ少しく正常品より異なる腊葉に就きて特に變種を設定する如き命名方針は著者の採らざる所にして若し type conception に従ひて是等學名を今少しく simplify する時は本邦の Flora は現在より遙に up-to-date たるに至らんと考ふ。

Urtica dioica LINN. ex THUNB. 69.

名鑑其引用を失せるも標本はイラクサなり、*Urtica Thunbergiana* SIEB. et ZUCC. in Abh Acad. Münch. II. (1846) : 214 と云ふ。

Urtica macrophylla THUNB.

標本はヤブマヲなり。之を *Boehmeria macrophylla* (THUNB.) SIEB. et ZUCC. l. c. 215 に combine せるもの之より先 David DON が Himalaya 其他の産別種に對し *Boehmeria macrophylla* D. DON Prodr. Fl. Nepal. (1825) : 60 の命名ある故右の combination を無効とし、同前の地産の *Boehmeria platyphylla* D. DON. l. c. に本種を配す (WEDDEL in DC., Prodr. 16 (1869) : 210), 然るに *B. platyphylla* は非常の大本にて雌花叢の直径 1 cm. あり、到底ヤブマヲたり得ず、故に牧野氏は増訂草木圖説にて *Boehmeria japonica* MIQ. in Ann. Mus. Bot. III (1868) : 131 に本種を宛つ (NAKAI in Journ. Coll. Sci. 31 (1911) : 198 も然らん)。然るに MIQUEL の本種は元來 *Urtica japonica* LINN. f. Supl. (1781) : 418 を combine せるものなるに、LINN. f. の *U. japonica* はヤブマヲに非ず、之 THUNBERG の採品にて THUNBERG は之を *Boehmeria spicata* 即コアカソに充つ、LINN. f. 自身も “racemis (spicis!) axillaribus solitariis elongata” と記せる故誤なからん (THUNBERG 標本 *B. spicata* 中アカソを混ずれど主標本はコアカソなり!) 即 *Boehmeria japonica* (LINN. f.) MIQ. もヤブマヲとして valid に非ず。又名鑑使用の *Boehmeria grandiflora* WEDD. も亦 *B. platyphylla* の異名なりと云へば (Ind. Kew.) ヤブマヲの學名は消失せる理なり、故に今之を *Boehmeria Miqueliana* n.nom. と呼ばんと欲す。

Urtica japonica THUNB. 70.

本種名鑑之を逸せるも名疏の鑑定當れり、即標本はクハクサなり。今 BUREAU 之を *Fatoua pilosa* GAUD. β. *subcordata* BUR. in DC. Prodr. 17 (1873) : 256 に當つるも GAUDICHAUD-BEAUPRÉ の著 Voyage autour du monde は 1826 出版なる故 THUNBERG の方遙に antedate なり。即クハクサの學名は *Fatoua japonica* (THUNB.) BLUME Mus. Bot. II. (1856) : t. 33 たらざる可からず。

Ilex japonica THUNB. 79.

之名鑑も記す如くヒラギナンテンなり、而て Lud. Kew. は THUNBERG が其 Fl. Jap. 及 Icones plantarum japonicarum tab. 22 に *Mahonia japonica* と記すと掲ぐれど之誤にて THUNB. はかゝる combination を用ゐたる事なし。*Berberis japonica* (THUNB.) R. BR. in TUCK. Cong. Exp. App. 22 (1818) なり。今 Ind Kew. p. 1206 及名鑑 *B. nepalensis* SPRENG. Syst. II (1825) : 120 を正名となすも之 *Mahonia nepalensis* CAND. (實は *M. nepaulensis* DC. なり) の組合せにして THUNBERG の方 antedate なり。

Ribes cyosabati LINN. ex THUNB. 102.

本種はヤシヤビシヤクなり、今 *Ribes ambiguum* MAXIM. と云ふも名疏 pt. 2. f. 17. d. には *Ribes parasitica* SIEB. の名を擧ぐ、即此名 valid なり。*Ribes parasitica* SIEB. ex ITO (改綴) は本種正名たらざる可からざるなり。

Vitis pentaphylla THUNB. 105.

本種は JUEL 之を生かし、名鑑亦之を擧ぐるも和名を記さず、然るに標本は胡蘆科のアマチャヅルなり。標本は花莖ありて花なし。腊葉整理の折 THUNBERG 誤て *Vitis* に編入せるなるべし、此種の誤は初期研究家に屢々見る所にて怪しむに足らず。今アマチャヅルは *Gymnostemma pedatum* BLUME に充つるも宜しく *Gymnostemma pentaphyllum* (THUNB.) n. comb. と呼ぶ可きなり。

Daucus Gingidium LINN. ex THUNB. 117.

本種は現在まで不明の品なり、JUEL 亦かゝる獨立種ある如く記す、然れども標本は正しくオランダミツバなり、其學名は *Apium graveolens* LINN. と云ふ。

Sium sisarum LINN. ex THUNB. 118.*Sium Ninsi* LINN. ex THUNB. 118.

前者は我國にて忘却され、後者は矢部、名鑑皆ムカゴニンジンに宛つ。然るに後者の標本は幼少なる甲析に過ぎず何者とも判じ難きに反し (Ind. Kew. 之を *Aralia quinquefolia* となす) 前者は日本採品及 Upsala 栽品共に立派なるムカゴニンジンなり。即後名を排し前名を推す所以なり。

Sium japonicum THUNB. 118.

本種も亦我國にて亡逸するも Ind. Kew. 等は之を生かす、然るに標本はパウフウなり。今パウフウは *Siler divaricatum* BENTH. et Hook. f. Gen. Pl. 1 pt. 3 (1867) : 909 と云ふも若し此のバイカル産品日本品と同一とせば THUNBERG の方 antedate なり、宜しく *Siler japonicum* (THUNB.) n. comb. と稱すべし。

Viburnum serratum THUNB. 124.

本種はアマチヤなり。名疏之を *Hydrangea Thunbergii* SIEB. とす、後 Fl. Jap. I (1835) : 111 に之を圖説す、名鑑之をベニガクに合するも改訂名彙は *H. Opuloides* K. KOCH var. *Thunbergii* MAK. として分つは正し、然れども今 *Hydrangea serrata* (THUNB.) SER. in DC. Prodr. 4 (1830) : 15 を採る。

Scilla biflora THUNB. 138.

本種は RETZIUS の antedate name に重複する故後 *Scilla orientalis* THUNB. in Tr. Linn. Soc. II (1794) : 334 と改稱す。標本は實を着けたるシヤウジャウベカマなる故 *Helonipsis orientalis* (THUNB.) n. comb. はシヤウジャウベカマの學名たる可し、現用の *H. Breviscapa* MAXIM. in Bull. Acad. Pét. 11 (1867) : 436 は自然消滅す。

Convallaria japonica THUNB. 139.

Convallaria spicata THUNB. 141.

前者はノシランにして *cernua* を書き直しあり、後者はヤブランなり。然るに Fl. Jap. には *C. japonica* に二變種を設け記文は α の方ノシランにて β の方ジャノヒゲなり、然るにジャノヒゲの標本は見當らず。考ふるに THUNBERG の送附して LINN. f. の命名せる *C. japonica* LINN. f. (1781) は正しくノシランなり、故に *C. japonica* はノシランに冠すべきに似たれど之より先 THUNBERG は其著 *Kaempferus illustratus* (1780) p. 208 に於て KAEMPFER 著 *Amoenitatum exoticarum* V. p. 823 fig. p. 824. 門冬に對し *Convallaria japonica* を命ぜり、此圖疑もなくジャノヒゲなるが故本名は終にジャノヒゲに適用せざるを得ざるなり。今 *Ophiopogon japonicus* Ker-Gawl. と稱す。

Convallaria spicata は Ind. Kew. 是を *Liriope spicata* LOUR. に充つるも *Dracaena graminifolia* LINN. を combine せる *Liriope graminifolia* BAK. の方 antedate なり。又 *Liriope spicata* LOUR. は前者の組合せに非ず、白花にして直立葉を有する別種なり。因に云ふ THUNBERG は *C. cernua* の記文を發表する事なかりき。

Hemerocallis japonica THUNB. 142.

此の學名 KAEMPFER の用うる所なる故後 *H. lancifolia* THUNB. in Tr. Linn. Soc. II (1794) : 335 と改稱す、蓋此改稱は現在の命名規約より見ば無意義なり。又標本に *H. undulata* と記すものあり、之 Mus. Upsal. Append. 5 (1797) : 107 に於ける改稱にしてギバウシなり。而して名鑑 *Hosta coerulea* TRATT. を充つ。而も之 *Funkia coerulea* SWEET, Hort. Brit. (1826-27) : 409 の組合せにして其の date 新し。 *Hosta japonica* TRATT. は既にタマノカンザシに誤用されたる故使用出来ずとするも *Hosta undulata* (THUNB.) の組合せは “once a synonym, always a synonym” の方則に適用せられざる故之を棄却する理由を認めず、況や THUNBERG の type specimen 嚴存するをや。即ギバウシの學名は *Hosta undulata* (THUNB.) n. comb. たらざる可からず。

Laurus glauca THUNB. 173.

本種は今日までシロダモに宛て、何人も疑はず、然れども標本は紫金牛科のソゲキなり。即學名二様の校訂を要す、即シロダモは *Litsea Sieboldii* n. nom. [= *Litsea glauca* (THUNB.) SIEB, in Verh. Bot. Gen. 12 : 21], ソゲキハ *Myrsine Thunbergii* n. nom. と命ず。後者を *M. glauca* と稱せざる理は既に *M. glauca* CASAR. Nov. Stir. Bras., Dec. 54. なる homonym あり、之既に *M. umbellata* の syn. 然れども規約 Recommendation XIV. f. に従ひて之を避けたり。現在ソゲキは *Myrsine capillata* MIQ. Ann. Mus. Bot. II (1865-66) : 262 non. Wallich in ROXB. Fl. Ind. ed. 2. II (1832) : 295 とするも是不可能なり。猶シロダモは TETRADENIA の屬名を用うるも之唇形科に同名ありて用可からざらず、猶古き *Litsea* 有效なる事規約附録 nomina conservanda に擧ぐる所なり、即其使用を推稱す。

Apactis japonica THUNB. 191.

本種は日本には消失せり、而して標本は確にクスドイゲなり、即 JUEL (Pl. Thunb. 1918 : 198) の提稱する如く *Apactis* THUNB. Nov. Gen. 3 (1753) : 66 は *Xylosma* FORST. Prod (1786) : 72 に代るべきものなり、今 “nomina conservanda” 之を活かすも之 *Myroxylon* FORST. に對してにて Wien の命名委員は偶々 THUNBERG の *Apactis* を忘却せしに他ならず、而して今是を廢棄すべき何等の規約條項を認めざるなり。隨て *Xylosma racemosa* MIQ. は消滅す。

Menispermum acutum THUNB. 193

本種は今日オホツツラフデに充て *Sinomenium acutum* (THUNB.) REHD. et WILLS. と云ふ。之を

設定せるは DIELS にて *S. diversifolium* (MIQ.) DIELS と稱す、然れど此種名は *Cocculus diversifolius* MIQ. の組合せにて此名既に Mexico 産品に DC. の使用せるもの故 *C. heterophyllus* HEMSL. et WILS. in Kew Bull. (1906): 150 有效なり。即オホツヅラフヂは *Sinomenium heterophyllum* (HEMSL. et WILS.) n. comb. なり。然るに標本はキシヨランなり。即 *acuta* の名は之に冠すべきなり。即 *Marsdenia tomentosa* MORR. et DECNE. は之を *Marsdenia acuta* (THUNB.) n. comb. と改稱するの止むを得ざるなり。

Menispermum orbiculatus LINN. ex THUNB. 194.

Menispermum trilobum THUNB. 194.

標本は共にアヲツヅラフヂなり、今前名を改めて *Cocculus Thunbergii* DC. Syst. I (1818): 524 と云ふ。然るに O. KUNZE. は之を活して *Cebatha orbiculata* (THUNB.) O. KZE. となすも是勿論不可能なり。名鑑之に *M. trilobum* THUNB. を配するも是誤記にして O. KUNZE は *Thunbergii* を之に配せるなり。而してアヲツヅラヂの學名として有效なるものは唯 *Cocculus trilobus* (THUNB.) DC. Syst. I (1818): 522 あるのみなり。

Prunus elliptica THUNB. 199.

本種は想像の如くホルトノキなり、即牧野氏の豫察的中せり。然るに牧野氏に賛するものなく今猶 *Elaeocarpus decipiens* HEMSL. in FORB. & HEMSL. Journ. Linn. Soc. 23 (1886): 94 の新名を用う、須く *Elaeocarpus ellipticus* (THUNB.) MAK. in T. B. M. 18 (1904): 67 を用う可きなり。

Myrtus laevis THUNB. 198.

本種は Ind. Kew. 之を活かすも日本にては不間に附す、之後に記す *Crataegus laevis* THUNB. 24 = *Photinia laevis* (THUNB.) DC. Prod. II (1825): 631 にしてカマツカに外ならず。然るにカマツカは別に *Crataegus villosa* THUNB. 204 あり。今之を combine せる *Photinia villosa* (THUNB.) DC. を用う。此の場合の如きに際し孰れの學名を撰擇すべきや、之を決定すべき規約なし。之現用命名規約の不備を示すものにて、著者は斯る場合には Rochester Code の如き “priority of position” の必要を感じるものにして、如何に一方が常用とは云へ *Photinia laevis* (THUNB.) DC. em. = *Myrtus laevis* THUNB. を *P. villosa* var. *laevis* (THUNB.) DIPP. として脱位するは不合理の如く考へらる。

Actaea japonica THUNB. 221.

本種はオホバシヤウマと鑑定され *Cimicifuga japonica* (THUNB.) SPRENG. の名稱の本に使用されるも標本は名疏鑑定の如くミツバシヤウマなり、*Cimicifuga bitermata* MIQ. と稱せらるゝもの之なり。即ミツバシヤウマは *Cimicifuga japonica* (THUNB.) SPRENG. たる可く。オホバシヤウマは *Cimicifuga acerina* (S. et Z.) n. comb. たる可し。

Corechorus hirtus LINN. ex THUNB. 228.

之ケヤキなるも THUNBERG 腊葉には此の名の日本品なし、而して別に *C. flex osus* 及 *C. serratus* のケヤキ標品あり。共に Tr. Linn. Soc. II (1894) : 335 に載するも其 *C. hirtus* との關係を示さず、今第二種 *serratus* を採つて牧野氏 *Zelkova serrata* (THUNB.) MAKINO in T. B. M 17 (1903) : 13 を作る、現用規約に従へば此の改名は有效なるに Ind. Kew. 之を認めざるは不當なり。因に云ふ、改訂名彙の劈頭に擧ぐるケヤキの學名 *Abelicea* REICHB. (1828) は Vienna code 附録に於て廢棄せるもの故抹殺すべし。

Thalictrum japonicum THUNB. in Tr. Linn. Soc. II (1794) : 337.

本種はセリバワウレンなり。此の類葉の變形極めて多けれども是等を總稱して今日の如く *Coptis Teeta* WALL. var. *anemonifolia* FIN. et GAGN. となすは不當なり、*Coptis japonica* (THUNB.) MAKINO を至當と考ふ。

Ranunculus ternatus THUNB. 241.

本種キツネノボタンに充るは大誤なり。其標本は Pl. Jap. nov. sp. (1824) 附圖の示す如くヒキノカサなり。即ヒキノカサの現用學名 *R. Zuccarinii* MIQ. Ann. Mus. Bot. III (1867) : 5 は廢すべく、キツネノボタンは新訂草木圖説の用うる如く *Ranunculus Vernyi* FR. et SAV. Enum. Pl. Jap. I (1875) : 8 たらざる可からず。

Melittis melissophyllum LINN. ex THUNB. 248.

本種は後 *M. japonica* THUNB. in Tr. Linn. Soc. II (1794) : 338 と改稱す、ミソガハサウなり。慧眼なる MAXIMOWICZ も此の鑒定を失し *Nepeta japonica* MAXIM. アリタサウを設定し、ミソガハサウは *Nepeta subsessilis* Maxim. と稱せり。即 *Nepeta japonica* (THUNB.) の combination 不能の爲上記の名稱其命を保つ。

Ocimum acutum THUNB. 248.

本種日本には亡逸す、標本はエゴマなり。*Perilla occimoides* LINN. と云ふ。

Ocymum crispum THUNB. 248.

本種も亦亡逸す、シソなり。*Perilla arguta* BENTH. 又 *Perilla nankeinensis* DECNE. と云ふも宜しく *Perilla crispa* (THUNB.) n. comb. たらざる可からず。

Ocymum rugosum THUNB. 249.

本種も日本にて亡逸するもヒキオコシなり原標品は MAXIMOWICZ 鑒定して自己の *Plectranthus glaucocalyx* MAXIM. に充つるは正し、*P. rugosus* WALL. 別に嚴存すればなり。

Ocymum virgatum THUNB. 250.

本種は今日まで不明に附しあるも標本はミソカウジュユなり、MAXIMOWICZ は之を検して *Savia plebeia* R. BR. に充つて別に *Mosla grosseserrata* MAXIM. を設く、宜しく *Mosla virgata* (THUNB.) n. comb. を以て代ふ可きなり。

Hedysarum racemosum THUNB. 285.

本種は名疏正しくヌスピトハギで充つ。今ヌスピトハギは *Desmodium oxypetalum* DC. に充つるも須く *Desmodium racemosum* (THUNB.) DC. Prodr. II. (1825) : 337 ならざる可からざるなり。

Hedysarum striatum THUNB. 289.

本種はヤハズサウとして *Les. eleza striata* HK. & ARN., *Microlespedeza striata* MAK., *Kummerowia striata* SCHLINDL. 等に充つるも標本はマルバヤハズサウなり、即是等學名はマルバヤハズサウに適用すべく、ヤハズサウは *Microlespedeza Makinoi* n. nom. と命す。

Hedysarum incanum THUNB. 289.

本種は名鑑 *Indigofera decora* LINDL. に充て和名を附せず、改訂名彙は之をニハフヂに充つ、標本はニハフヂにて名鑑名彙の鑒定當れり。*Indigofera incana* THUNB. Prodr. Pl. Cap. (1800) : 132 は別植物なり。

Prenanthes integra THUNB. 300.

本種は名鑑ホソバワダンに充つるも標本はハマナレンなり。今ハマナレンは *Crepis lanceolata* MAK. var. *pinnatifida* MAK. とすも宜しく *Crepidiastrum integra* (THUNB.) n. comb.

たらざる可からず、又ホソバワダンは *Orepidiastrum lanceolatum* (HOULT.) NAKAI なり。

Prenanthes chinensis THUNB. 301.

本種は Ind. Kew. 之を *Lactuca Fischeriana* DC. とすも同種は日本に産せず、標本はノニガナなり。ノニガナは今日 *Lactuca Matsumurae* MAKINO と云ふも *Lactuca chinensis* (THUNB.) n. comb. たるを要す。

Eupatorium hyssopifolium LINN. ex THUNB. 307.

本種は本日まで不問に附せられ居るも標本はヒメシランなり、即本名は *Aster fastigiatus* FISCH. の異名に配すべし。

Arnica ciliata THUNB. 318.

Fl. Jap. には“Ogonkua”と記す、標本には“Ogonqua”とあり名疏は SIEBOLD の説として此和名當らずと記すも標本は正しくワウゴンなり。ワウゴンの現用學名は *Hypochoeris grandiflora* LEDEB. と云ふも THUNBERG の方 antedato ならば須く *Hypochoeris ciliata* (THUNB.) n. comb. たらざる可からず。

Chrysanthemum japonicum THUNB. 321.

本種の標本はオトコヨモギなるに又別に *Artemisia japonica* THUNB. あるが故に上名は消滅せり、故に牧野氏別にリウノウギクに對し *Pyrethrum sinense* LINN var. *japonicum* MAXIM. を昇格して *Chrysanthemum japonicum* (MAXIM.) MAK. を作る、右の如き改名は之を避くるを改名者に薦むるも後研者をして此改名を無効たらしむる事を禁ず、即今之を保存す。

Sicuos angulata LINN. ex THUNB. 325.

本種は Tamatsagori とあり、名疏之をタマツサウリとなせどもタマツサウリはカラスウリの一名にて *Trichosanthes cucumeroides* MAXIM. なり、標本はキガラスウリにて今 *Trichosanthes japonica* REGEL の名あり。

Lobelia erinoides LINN. ex THUNB. 326.

本種は後 *Lobelia cymuloides* THUNB. in Tr. Linn. Soc. II (1794) : 330 と改稱せり、名鑑は之をミゾカクシに充つるも標本はヒナギキヤウなり、而してヒナギキヤウは別に *Campyula marginata* THUNB. 89. として存す、今 Ind. Kew. 之を *Widdlenbergia gracilis* SCHRAD. Blumenbachia

(1827) 38 in obs. に充つるも THUNBERG の方遙に antedate なる故 *Wahlenbergia maginata* (THUNB.) DC. Mon. Camp.: 143 を採用せざる可からず。

Pteris sinuta THUNB. 332.

本種は多年亡逸せるも標本はクサソテツなり。即ち *Matteuccia Struthiopteris* TODARO の異名に配すべし。

Lycopodium japonicum THUNB. 341.

本種は名鑑マンネングサに充つるも標本はヒカゲノカヅラなり。又 *Lycopodium clavatum* LINN. 341. は今日ヒカゲノカヅラに充てらるゝも著者の見たる數多の瑞典産品はヒカゲノカヅラより葉粗く、光澤強く、尖端鋭く爪狀に卷けり、蓋し頗相似たるも同一種とは稱し難し、即日本産ヒカゲノカヅラは上記 THUNBERG 名稱を用うるを可とす。

引用文献

- (1) HOOKER, Sir J. D. & JACKSON D. Index Kewensis. Oxford, Clarendon Press, 2 vols. & 4 suppl. 1895-1913.
- (2) LINUMA, Yokusai. 飯沼愨齋. Sômoku Dzusetsu Sôbu 草木圖說草部 (Illustrated flora of Japan: Herb part) Ôgaki, Heirinshô, Ansei 3 (1856) 20 bks. in 20 vols.
- (3) IRÔ, Keisuke 伊藤圭介. Taisei Honzô Meiso 泰西本草名疏 Naamlyst van gewassen door den beroemden natuuronderzoeker C. P. Thunberg, M. D. op Japan gevonden. Hersien en met Japansche en Chineseche naamen verrykt door Ito Keiske te Nag'ja, bij Boenzy II (1828) [Nagoya] Kwagyô Shooku, Bunsei 12, 1829. 2 bks. in 1 vol.
- (4) JUEL, H. O. Plantae Thunbergianae: Ein Verzeichnis der von C. P. THUNBERG. in Südafrika, Indien und Japan gesammelten und in seinen Schriften beschriebenen oder erwähnten Pflanzen, sowie von den Exemplaren derselben, die im Herbarium Thunbergianum in Upsala aufbewahrt sind. Upsala. A.-B. Akademiska Bök., etc., [1918.]
- (5) MATSUMURA, Jinzô 松村任三. Teikoku Shokubutsu Meikan 帝國植物名鑑 Index plantarum Japonicarum, sive Enumeratio plantarum omnium ex insulis Kurile, Yezo, Nippon, Sikoku Kiusiu et Formosa hucusque cognitarum. Tokyo, Maruzen, 3 vols. 1904-1912.
- (6) ——— Kaitai Shokubutsu Meii Kôhen. Wamei no bu 改訂植物名彙後編和名之部. Shokubutsu Mei-i... revised and enlarged. Part. II Japanese names of plants. Tokyo, Maruzen, [T. 5, 1916.]
- (7) THUNBERG, Carl Peter. Nova genera plantarum (dissertationes) 1-8. Upsala, Joh. EDMAN. MDCCCLXXXI [1781]-1798.
- (8) ——— Musæum naturalium Academ'ae Upsaliensis. Pars X, Donationes Thunbergianae continuat. (diss.) Upsala, 1791.

- (9) ——— *Flora Japonica, sistens plantas insularum Japonicarum, secundum systema sexuale emendatum, redactus ad XX. classes, ordines, genera et species, cum differentiis specificis, synonymis pavis, descriptionibus concinnis et XXXIX iconibus.* Leipzig, I. G. MÜLLER, 1784.
- (15) ——— *Observationes botanicae in floram Japonicarum in Trans. Linn. Soc. London, vol. II (1794): 326-342.* (Reprinted in USTERI'S *Annalen der Botanik*, vol. 18, p. 89-105. 1796.)
- (11) ——— *Plantarum Japonicarum novae species....* (Dissertation p. p. Ol. Andr. WALLSTRÖM) Upsala, PALMBLAD. et C., MDCCXXIV. [1824].

ON CERTAIN THUNBERGIAN PLANTS FROM JAPAN

(Résumé)

Tyôzaburô TANAKA.

As the result of critical examination of the Japanese plants in Thunbergian Herbarium deposited at the University of Upsala, Sweden, the writer was able to identify a number of species hitherto unidentified or misrepresented. The following list is compiled to summarize the discussion given in this paper, in which these Thunbergian plants are treated.

Salix integra THUNB. = *S. purpurea* LINN. subsp. *amplexicaulis* BOISS. sec. MATSUM.

Commelina japonica THUNB. = *Pollia japonica* THUNB.

Kyllinga triceps THUNB. = *Lipocarpa microcephala* KUNTH.

Carex cephalotes THUNB. non F. MUELL. = *Carex nubigena* DON. var. *planiuscula* KUECK. sec. MATSUM.

Carex remota LINN. = *Carex gibba* WAHL.

Carex caespitosa THUNB. = *Carex Thunbergii* STEUD.

Andropogon crinitus THUNB. = *Pogonatherum crinitum* (THUNB.) KUNTH = *P. saccharoideum* BEAUV.

Andropogon ciliatnm THUNB. = *Themeda japonica* (WILLD.) n. comb.

Phalaris hispida THUNB. = *Anthraxon hispidus* (THUNB.) n. comb.

Phalaris erucaeformis LINN. = *Beckmannia erucaeformis* (LINN.) HOST.

Panicum hirtellum THUNB. = *Oplismenus Burmanni* (RETZ.) BEAUV.

Panicum hordeiforme (LINN.) THUNB. = *Pennisetum purpurascens* (THUNB.)

MAKINO = *Pennisetum japonicum* TRIN.

- Panicum bisulcatum* THUNB. = *Panicum acroanthum* STEUD. sec. MATSUM.
Milium globosum THUNB. = *Isachne globosa* (THUNB.) n. comb.
Agrostis ciliata THUNB. = *Arundinella anomala* STEUD. = *Arundinella hirta*
 (THUNB.) n. comb.
Poa trivialis LINN. = *Poa acroleuca* STEUD.
Poa barbata THUNB. = *Eragrostis ferruginea* (THUNB.) BEAUV.
Festuca misera THUNB. = *Agropyrum miserum* (THUNB.) n. comb.
Viscum Opuntia THUNB. = *Viscum japonicum* THUNB. = *Pseudicrus Opuntia*
 (THUNB.) n. comb.
Fagara piperita THUNB. = *Zanthoxylum schinifolium* SIEB. & ZUCC.
Elaeagnus crispa THUNB. = *Elaeagnus umbellata* THUNB.
Urtica dioica THUNB. = *Urtica Thunbergiana* SIEB. & ZUCC.
Urtica macrophylla THUNB. = *Boehmeria japonica* MIQ. = *Boehmeria Miqu-*
eliana n. nom.
Urtica japonica THUNB. = *Fatoua japonica* (THUNB.) BLUME.
Ilex japonica THUNB. = *Berberis japonica* (THUNB.) R. BR.
Ribes cynosbati THUNB. = *Ribes parasitica* SIEB. apud K. ITÔ
Vitis pentaphylla THUNB. = *Gymnostemma pentaphyllum* (THUNB.) n.
 comb.
Daucus Gingidium THUNB. = *Apium graveolens* LINN.
Sium sisarum LINN. = *Sium Ninsi* LINN. sec. MATSUM.
Sium japonicum THUNB. = *Siler japonicum* (THUNB.) n. comb.
Viburnum serratum THUNB. = *Hydrangea serrata* (THUNB.) SER.
Scilla biflora THUNB. = *Heloniopsis orientalis* (THUNB.) n. comb.
Convallaria japonica THUNB. = *Ophiopogon japonicus* KER-GAWL.
Convallaria spicata THUNB. = *Liriope graminifolia* (LINN.) BAK.
Hemerocallis japonica THUNB. = *Hosta undulata* (THUNB.) n. comb.
Laurus glauca THUNB. = *Myrsine Thunbergii* n. nom.
 [*Litsea glauca* SIEB. = *Litsea Sieboldii* n. nom.]
Apactis japonica THUNB. = *Xylosma racemosa* MIQ.
Menispermum acutum THUNB. = *Marsdenia acuta* (THUNB.) n. comb.
 [*Sinomenium acutum* REHD. & WILS. = *Sinomenium heterophyllum*
 (HEMS. & WILS.) n. comb.]
Menispermum orbiculatum THUNB. = *Cocculus trilobus* (THUNB.) DC.
Prunus elliptica THUNB. = *Elaeocarpus ellipticus* (THUNB.) MAKINO.
Myrtus laevis THUNB. = *Photinia laevis* (THUNB.) DC. emend. = *Photinia?*
villosa (THUNB.) DC.

Actaea japonica THUNB. = *Cimicifuga japonica* (THUNB.) SPRENG. non. MIQ.
 [*Cimicifuga japonica* MIQ. = *Cimicifuga acerina* (SIEB. & ZUCC.) n.
 comb.]

Corchorus hirtus THUNB. = *C. flexuosus* THUNB. = *Zelkova serrata* (THUNB.)
 MAK.

Thalictrum japonicum THUNB. = *Coptis japonica* (THUNB.) MAK.

Ranunculus ternatus THUNB. = *Ranunculus Zuccarinii* MIQ.

[*Ranunculus ternatus* auct. = *Ranunculus Vernyi* FR. et SAV.]

Melittis melissophyllum THUNB. = *Nepeta subsessilis* MAXIM.

Ocimum acutum THUNB. = *Perilla occimoides* LINN.

Ocimum crispum THUNB. = *Perilla crispata* (THUNB.) n. comb.

Ocimum rugosum THUNB. = *Plectranthus glaucocalyx* MAXIM.

Ocimum virgatum THUNB. = *Mosla virgata* (THUNB.) n. comb.

Hedysarum racemosum THUNB. = *Desmodium racemosum* (THUNB.) DC.

Hedysarum striatum THUNB. = *Microlespedeza striata* (THUNB.) mihi non
 MAK.

[*Microlespedeza striata* MAK. = *Microlespedeza Makinoi* n. nom.]

Hedysarum incanum THUNB. = *Indigofera decora* LINDL.

Prenanthes integra THUNB. = *Crepidiastrum integra* (THUNB.) n. comb.

Prenanthes chinensis THUNB. = *Lactuca sinensis* (THUNB.) n. comb.

Eupatorium hyssopifolium THUNB. = *Aster fastigiatus* FISCH.

Arnica ciliata THUNB. = *Hypochoeris ciliata* (THUNB.) n. comb.

Chrysanthemum japonicum THUNB. = *Artemisia japonica* THUNB.

Sicus angulata THUNB. = *Trichosanthes japonica* REGEL.

Lobelia erinoides THUNB. = *Wahrenbergia marginata* (THUNB.) DC.

Pteris angulata THUNB. = *Matteuccia Struthiopteris* TODARO.

Lycopodium japonicum THUNB. = *Lycopodium clavatum* auct. non LINN.